

3 地域の特性に即した農林水産業、商工業等の産業の振興開発 (2) 水産業

小笠原村の水産生産高は、平成24年の漁業生産量は511t、漁業生産金額は4億9600万円と、比較的安定した実績を示しているものの、年ごとの増減がある。

また、水産センサーによる各種調査や試験研究成果の普及・指導が充実されていく中で、漁業生産活動は確実に進展してきている。

漁獲物については、島内消費、加工用原魚及び土産品として一部が取り扱われる他は、大部分が定期船おがさわら丸により島外に出荷されている。

漁業の基盤となる漁港の整備は、小笠原諸島の復興・振興開発に不可欠であり、昭和43年に復帰後小笠原島漁業協同組合が設立されて以降、港灣とともに重点的に整備を進めてきており、第4種漁港として地元漁業者の生活安定に大きく寄与している。

また、他県船の登陸・休憩・前進基地としての役割も果たしている。さらに、漁業無線通信業務を充実することにより、漁船等の安全航行・遭難防止と効率的な操業に貢献している。

この結果、漁船の近代化・大型化を実現させるなど、漁業者の生活安定に貢献している。

また、クワヤイルカフオツソングの遊漁船などの小笠原諸島の自然環境を生かした観光産業の拠点として利用され、産業振興へ寄与している。

現状と課題

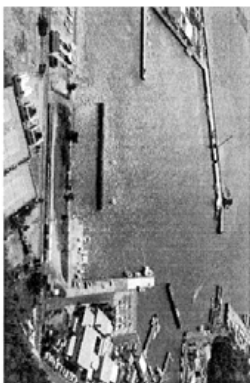
- 復帰後整備を進めてきた漁港施設の老朽化が進行しており、施設の機能確保・維持管理とともに、良質な水産物の出荷体制強化を図るための施設整備が必要である。
- 広大な豊かな漁場を生かして良質な水産物が水揚げされているが、市場への輸送時間や費用の面で不利性を抱えている。
- 沿岸定着性の高い魚介類は資源の減少が懸念されているとともに、メカシキについては生態が明らかにならず、資源管理のための生体調査が必要である。
- 島内の市場規模が小さく、需要も不安定なため、島内での水産物の安定した供給は困難な状況であり、島外への出荷が主体となっている。
- 後継者育成については国などの支援の下、就業希望者の積極的な受け入れを進めているが、住宅の不足等課題が多く、水産業の振興を図るためには、担い手の確保及び共同利用施設等の更なる充実が必要である。

今後5年間の取組

- 漁港内の静穏度を確保し、漁船の安全な停泊場を確保するとともに、漁港施設の地震・津波対策推進のため、防波堤の改良や新設を進める。【郡】
- 漁港施設の機能保全のため計画的な維持管理を進めるとともに、水産物の品質保持や衛生管理のための日よけ施設等の整備を進める。【郡】
- 試験研究や漁業資源の調査等を行うとともに、漁業技術の改善・普及に努め、生産性の向上及び持続可能な漁業経営の安定化を目指し、水産業の振興に努める。【郡】
- 水産物の安定供給に向けて、新たな販路の拡充や島内流通の充実を推進する。【村】
- 後継者の確保・育成を支援し、漁業従事者の確保を図る方策の検討を行う。【郡】

年次計画

具体的な取組	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
防波堤の改良・新設			設計・工事		
施設の機能保全・維持管理等			継続		
販路拡大・島内流通の充実			推進		



二見漁港(父島)

3 地域の特性に即した農林水産業、商工業等の産業の振興開発 (3) 商工業

小笠原村商工会は、島内の商工業者に対して、経理・税務などの指導、巡回相談、各種講習会の開催などの経営改善普及事業を実施し、経営の指導・改善・育成を行っており、都はこの取組を支援している。
また、特産品のメカシキを活用した「メカシキカレー」などの商品化を生産者が進めるなど、特産品のブランド化を促進するための地産業等の連携への取組も始まっている。



小笠原島漁業協同組合「メカシキカレー」

現状と課題

- 個人経営の商店や飲食店が多く、各店の人手も少ないため、観光客数の増加などに対応して、きめ細かいサービスの提供が課題である。
- 産業間の連携が弱く、地元の農産物や水産物の地域内消費が十分に進んでいない状況にある。
- 景気は回復基調にあるものの、平成 26 年度からの消費税率の引き上げによる小規模事業者への影響も懸念されており、小規模事業者の経営安定に向けた対策は必要かつ重要である。

今後 5 年間の取組

- 商工会の経営指導体制やサービスレベル向上のための講習会の実施を支援し、地域で一体となった効果的なサービス提供や商店間の連携強化を図る。【都】【村】
- 第一次産業との連携を強化し、地元の農産物や水産物を活用した加工品の開発や島内流通の円滑化を進め、小笠原ブランドとしての定着・普及を図る。【村】
- 今後も継続して経営改善普及事業を実施して、小規模事業者の経営安定に向けた取組が行えるよう地域の特性・ニーズを的確に捉え、商工会の取組を支援していく。【都】

年次計画

具体的な取組	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
小笠原ブランドの定着・普及	継続				
商工会への支援	継続				